

Case Study

支部ケース・スタディ

四国支部

「2030ケーブルビジョン～コンテンツが変わる～」地域の魅力を創出するコンテンツプロデューサーを目指して!

ケーブルテレビ徳島(株)

取締役コンテンツ事業部長

中山 哲也



自主制作番組をキーコンテンツに

ケーブルテレビ徳島では、これまでも、地域の魅力を発信するため、さまざまなジャンルの番組を自主制作しており、ケーブルテレビ業界が大きな変革期を迎える中、他事業者との差別化を図るためには、自主制作番組をキーコンテンツと位置付け、さらに地域密着の魅力ある番組制作に取り組んでいます。

ここ数年の番組を紹介

[1] 地方の魅力を上げた番組

『子どもの声が聞こえる～いざりの365日～』

徳島県美波町伊座利(いざり)地区は、人口100人ほどの小さな漁村で、人口減少による小中学校廃校の危機を乗り越えようと地元の人たちが立ち上がり、県外からの移住を促進するため、1999年から親子での1日漁村体験や漁村留学制度を開始し、小学生・中学生が増えて活気のある漁村になっています。その子供たちを中心に漁村の1年間を番組にしました。

作品は、2019年の4K・VR徳島映画祭で大賞を受賞し、また、2020年の地方の時代映像祭ではケーブルテレビ部門の最優秀賞をいただきました。この受賞をきっかけに、NHKワールドでも世界に発信されています。

この番組のタイトル『子どもの声が聞こえる』は、移住活動の初期、学校に子どもが少しずつ戻り出したころ、地域のお年寄りが言った歓喜の一言です。伊座利地区のスローガンは「子どもは宝」。地域の世話役のお一人はこう話します。「昔から子どもは宝物と言われているが、最近の日本ではこのことを忘れかけているのではないか」。

その言葉通り、伊座利の大人たちは子どもを地域の宝物ととらえ、わが子同様に分け隔てなく接しています。悪さをすればしっかり叱る、親が留守の子どもは、自宅に呼んで一緒に晩ごはんを食べさせてあげる。かつては日本のどこにでもあった「地域全体で子どもを守り育てる」という空気が、伊座利には今も色濃く残っています。これが伊座利地区の最大の特徴です。ある移住者の子どもは「都会の学校より、伊座利は人が多くいる」と感じたそうです。濃密な人間関係、秋祭りに運動会、行事を通して接する大人の社会。徳島の中にこんな素敵な場所があることを知ってほしい、そんな思いで制作した番組です。



『十郎兵衛一家の阿波でこ散歩』

「ととさんの名は十郎兵衛、かかさんはお弓と申します」。

皆さんはこのフレーズをご存じでしょうか？ これは人形浄瑠璃の演目「傾城阿波の鳴門」の有名なセリフです。「おつる」という少女が、生き別れになった両親を探して旅に出る、そんなストーリーです。徳島は全国的にも人形浄瑠璃が盛んな地域で、特にこの「傾城阿波の鳴門」は人気の演目です。

そんな「傾城阿波の鳴門」に登場する母「お弓」と娘「おつる」が舞台を



飛び出し、徳島の歴史や文化について、街並みを散歩しながら紹介する番組です。徳島県の協力を得て登場人物の被り物を制作しました。ゲストに徳島城博物館館長などに出演してもらい、非常にテンポの良い、親しみやすい番組で視聴者に非常に好評です。

また、「おつる」ちゃんは、NHK-BSプレミアム「ザ・穴場ツアーCATVネットワーク」の徳島ロケに出演したことをきっかけに、1年間、同番組にレギュラー出演させていただき、全国各地のCATV局と、その地域の魅力発信に一役買ってきました。一方、出演者のU字工事さんと一緒に番組を進行する中で、徳島弁で突っ込みを入れる、会話の合間に徳島ネタをぶっこむなど、じわじわと徳島をにじませることができました。徳島県の担当部局の方からは「徳島県のPRになる」と高い評価をいただきました。「十郎兵衛一家の阿波でこ散歩」は、これまでに9話まで制作し、放送と同時にYouTubeでも英語版と合わせて配信中です。



『とくしまドローン紀行 そらたび』

2017年から始まった『とくしまドローン紀行 そらたび』は、ドローンで山河や街並みを空撮し、徳島の新たな魅力を発掘している4K番組です。ハイセンスな音楽と融合した映像美が人気の番組で、「ケーブル4K」でも全国に向けて放送しています。

2022年には、イーストとくしま観光推進機構(DMO)と連携し、徳島を代表する名所「鳴門」と「吉野川」を、新たな切り口で映像化しました。これまでにない観光資源を開拓し、PRしようという試みで



す。鳴門といえば「渦潮」が有名ですが、この渦潮を生み出す鳴門海峡周辺には、そのダイナミックなイメージとは真逆の、静かで風光明媚な海辺の風景があります。また、吉野川一帯の河川・水路では、水上タクシーを使った周遊・旅客の移動などの取り組みを紹介するなど、地域の観光資源のPRに一役買っています。

『神山まるごと高専;15歳の道しるべ(仮)』

徳島県の山間部に位置する神山町に、全国で20年ぶりとなる私立の高等専門学校が2023年4月に開校する予定です。「ものを作る力で社会に変化を生み出す。そのためには、文系、理系、デザイン、人間、まるごと学べる学校が必要」とのコンセプトで設立されました。その開校までの道のりと一期生の卒業までを記録する番組を制作中です。数年にまたがる取材ですが、後々、地域の記録として非常に貴重な番組になると考えています。

[2]地元大学との連携協定に基づく番組制作

当社は、徳島大学、四国大学と、それぞれ2020年に地域貢献に関する協定書を締結し、大学と協力して地域の活性化のための番組を制作放送しています。

[徳島大学との連携]

コロナ禍で対面での講義ができない中、学生向けのオンライン講演会として、「徳島の文化を学ぶ」と題して、徳島の有識者に出演をいただき、収録放送しました。阿波踊りや藍染の実演、外国人による四国遍路の魅力など、どれをとっても徳島の文化の奥深さを知ることができる内容となっており、特に、県外から来た学生には非常に好評でした。

また、地元の人に大学の研究や取り組みを知ってもらうため、「徳島大学ってどんなところ」と題して、主に徳島大学の研究者と学生との対談方式で、わかりやすく大学の情報を発信する番組を放送しました。最先端のゲノム

「徳島の文化を学ぶ」講演会の内容	
第1回	大塚国際美術館
第2回	阿波踊り・徳島の民謡
第3回	徳島城博物館
第4階	藍染
第5階	人形浄瑠璃
第6回	四国遍路
第7回	徳島県の文化の魅力
第8回	第九 アジア・日本初演



編集のお話や、空飛ぶ車の研究、成層圏の研究を地域創生につなげる取り組みなど、普段は知ることのできない徳島大学の興味深い取り組みをラインナップしています。いずれのシリーズも当社の公式YouTubeでも配信していますので是非ご覧になってみてください。

[四国大学との連携]

一方、四国大学とはeスポーツで連携しています。

徳島県を挙げて推進しているeスポーツについて、「実況eスポーツスタジアム」と称して、2020年から2回/年のペースでeスポーツ選手権を開催。大学には選手集めや場所の提供などで協力いただき、各地から参加したプレイヤーの対戦を番組として収録して放送しています。毎回、実況・解説付きで行っています。実況は自社の男性アナウンサーが行い、解説者にはそのゲームのトッププレイヤーのプロを迎えて、だれが見ても楽しめるようなエンターテインメント番組に上げています。また、この取り組みは、青少年の育成の観点から徳島ロータリークラブから協賛もいただいております。優勝者へ副賞を出すことができています。



[3]四国支部の活動『えかここ4』による番組制作

日本ケーブルテレビ連盟四国支部では、四国のケーブルテレビ各社の番組制作のスキルアップや情報交換を目的に番組交流部会を設立し、四国アイランドリーグや高校野球、さらには企画番組として、四国4県の魅力を掘り起こす番組『えかここ4』を協力して制作しています。

この取り組みの一環として、昨年、(一社)四国ツーリズム創造機構との連携により、今注目の旅行形態である「アドベンチャーツーリズム」をテーマに4県の魅力を伝える番組を4Kで制作しました。

四国には、日本の原風景や山郷の暮らしが今なお残るほか、歴史文化や伝説・伝承といったスピリチュアルなスポットが各地に点在しています。四国の隠れた歴史を掘り起こしながら、そこにある自然の体感や地元の人との交流など、四国を体感できる番組となっています。

制作面では、当社が幹事局となり、全体の企画・構成、(一社)四国ツーリズム創造機構との調整などを担当し、各県の参加局は、各地のネタの掘り起こしや現地ガイドの手配、各パートの撮影・編集を担当してもらいました。各県のCATV局のがんばりのおかげでスポンサーも付き、「ケーブル4K」にも買い上げていただくことができました。

この番組では、最初から4K制作を念頭に置いていたため、機材の面で制作できる局が限られていました。しかし、全体を通して、各局の役割分担を整理しながら共同制作を進めました。その結果、複数局が協力して番組を制作する体制づくりや分担の方法など、四国内での今後の4K共同制作の蓄積ができたように思います。



4K制作で、域外へ地域の魅力を発信

これまで、域内で放送することを念頭に番組交流部会として制作を行ってきましたが、4K制作すれば「ケーブル4K」で全国チャンネルに乗せることができ、四国の魅力を高精細な映像で全国発信できる、そして地域の活性化に役立つことができるということを再認識しました。このことは、CATV局のプレゼンス向上に大きな意味を持つと考えています。これからは、地元の視聴者向けの番組に加え、「ケーブル4K」やネット配信で域外に地域の魅力を発信していく、そんなアプローチも自主番組の一つの役割だと考えています。

これからも、地方の魅力を創出するコンテンツプロデューサーとして、さらに、様々な取り組みに挑戦し、より良い番組を制作していきたいと思っております。